

# 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 大会施設工事安全衛生対策協議会における取組について

アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、世界の人々に感動を与える場となる大会施設を着実に整備するため、工事を安全最優先で施工することが不可欠。大会施設の建設工事のリスクに対し、安全衛生対策を徹底する必要。

関係省庁、発注者、建設業団体、労働組合がそれぞれの立場から緊密な連携を行うため、平成28年1月に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 大会施設工事安全衛生対策協議会」を組織

<協議会構成員> 内閣官房、文部科学省、厚生労働省、国土交通省、東京労働局、東京都、東京2020大会組織委員会、日本スポーツ振興センター（JSC）、晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者、労働安全衛生総合研究所、建設業労働災害防止協会、日本建設業連合会、全国建設業協会、建設産業専門団体連合会、建設労務安全研究会、日本労働組合総連合会

平成28年6月、大会施設工事における「安全衛生対策基本方針」を策定

## 基本方針の理念

- 国内外から注目される大会施設の建設工事を、大会の一つの**レガシー（引き継がれていく有益な遺産）**として、**今後の快適で安全な建設工事のモデルへ。**
- 大会施設の建設工事に携わる者一人一人が世界最大の平和の祭典に参加しているという認識を持ち、**安全衛生対策は、元請、下請（一人親方も含む。）の別なく、**労使協調の下、統一的に実施。



大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成/JSC提供

## 大会エンゲージメント への貢献

安全衛生対策の分かりやすい情報発信や技術者間交流などを通じて、たくさんの人達と一緒に大会を創り上げていこうとする大会エンゲージメントにも貢献

世界に誇る日本の建設工事の高い安全性と信頼を次の世代へ継承